

令和5年度 第2回さいたま市博物館協議会 会議録

開催日時 令和6年3月13日（金）午後2時から午後4時
開催場所 さいたま市立博物館 講座室
出席者名 委員：江里口友子委員長、新美和子副委員長、神田真仁委員、小宮るり子委員、杉山正司委員、千葉諭美委員、橋本正晴委員、初音みね子委員、坂野千登勢委員、広田由子委員、亙理隆委員、伊藤さおり委員、小田切倫子委員
（欠席：松岡聖子委員、宮瀧交二委員）
事務局：博物館長、博物館長補佐兼事業係長、博物館長補佐兼管理係長、同事業係主事、浦和博物館主幹、浦和くらしの博物館民家園主査、旧坂東家住宅見沼くらしっく館主査、与野郷土資料館主査
傍聴人 なし

さいたま市博物館条例第14条に基づき、令和5年度第2回さいたま市博物館協議会を開催しました。

会議名 令和5年度第2回さいたま市博物館協議会

博物館館長補佐兼管理係長の司会により開会し、博物館長及び委員長のあいさつに続き、さいたま市博物館協議会規則に基づき、委員長が議長になり議事に移りました。

議 事

議 長 議事に入ります。まず、前回の協議会についての報告事項を、事務局からお願いします。

事 務 局 報告事項を申し上げます。昨年8月に行った第1回博物館協議会の際に様々な意見をいただきました。現在までの対応状況について報告いたします。

まず、浦和博物館、浦和くらしの博物館民家園、旧坂東家住宅見沼くらしっく館等を巡る、バスツアーやスタンプラリーを開催してはどうかというご意見をいただきました。これにつきましては、昨年10月3日から11月19日にかけて、市内の生涯学習施設など110か所の公共施設が企画している「さいたま市生涯学習学びのネットワーク」のシールラリーの実施機関の1つとして参加しました。どのくらいシールラリーをしに来た人がいるのかについては統計をとっていませんが、5パーセント前後、入館者の増加に貢献したのではないかと思います。

2つ目の意見として他の政令指定都市の博物館と比較して、どのくらいの割合の予算が割かれているのか分析してはどうかというご意見をいただきました。現時点では未着手ですが、全国にある20の政令指定都市の市立博物館の予算を調査したいと考えています。

次に学芸員は、他の博物館をたくさん見たほうが良いので、出張などの機会に足を延ばしたらどうかという意見もいただきました。普段はそれぞれの学芸員が個人的に有給休暇等を取得して博物館の展示を見に行っています。また埼玉県博物館連絡協議会に所属しているので、年に数回ある会議に合わせて見学するなどして自己研鑽を積んでいます。今後も引き続き行いたいと思います。

また、博物館各施設で、同時期に統一テーマによる協同展示をしたらどうかという意見についてですが、現在開催中の企画展「鴻沼」は鴻沼資料館の資料を市立博物館に移動させて展示・紹介をしています。この展示を皮切りにして、来年度以降、どのような形で各施設同士で協同展示ができるのかについて、学芸員同士で検討していきます。

次に博物館で実施する講座の中で平日に実施するものが多く、可能であれば土曜日や日曜日に開催してもらえないかという意見につきましては、土日に開催すれば様々な年齢層の方が参加できると思われませんが、講師の都合もあり平日から土日に変更が難しいものもあります。ただ差し支えない講座についてはなるべく土日に実施する方向で考えたいと思います。

複数の委員から意見が出た、博物館のホームページについてうらわ美術館や青少年宇宙科学館のように独立した形を作れないか、また、スマホで閲覧した時に表示の一部が切れているページが散見されるので早急に改善してほしいということに関しましては、スマホ版のページが一部切れているものはすぐに修正しました。ホームページは市の広報部門と話し合いを始めました。その結果、サブサイトを新たに作るということになり、構築料が発生することが分かっております。将来的には、サブサイト構築料の予算を要求して新しいホームページを立ち上げたいと思っています。現段階では広報部門との調整を進めているところです。この件については機会がありましたら来年度以降の協議会で報告したいと思います。

また、浦和博物館のホームページから浦和レッズがエンブレムについて紹介しているページへとべるようにしてはどうかというご意見につきましては、リンクを貼って浦和レッズのページへとべるように対応しました。

市立博物館の常設展示の考古の分野は充実しているが、中世以降の分野が寂しいのではないかと意見をいただきました。確かに鎌倉時代や室町時代はまず所蔵資料が少ないので現状の展示になっていますが、近世・近代は

改善の余地があると思っています。現在、資料の入れ替えやミニ展示を行っています。近世・近代は所蔵資料も多いので、展示スペースの拡充をして今後も充実に努めたいと思います。

Xで1日1回のつぶやきや、展示準備中の様子を発信するなど工夫してみてもどうかという意見をいただきました。現状、1日1回つぶやくことは難しく、そこまで至っていません。企画展「鴻沼」でやってみようと思いましたが、職員全員が展示準備にかかってしまったためXの対応が難しく、できませんでした。タイミングを見計らいながら来年度できるところから始めようと思っています。昨年の夏以降、館の日々の様子や開催中の展示の紹介をこれまで以上に多く発信するようにしています。ツイートを見ていただければ分かると思いますので、後ほど委員の皆様にも見ていただければと思います。

企画展「鴻沼」において、市内に住んでいる人は知っているかもしれないけれど、市外の人には分からないと思うので、導入部分に総論のようなものを入れたらどうですか、というご意見もいただきました。こちらに関しては現在展示している第1章で鴻沼の成り立ちや特徴についてふれていて、鴻沼をはじめとした関東地方に存在した沼がどのように形成されたのかについて解説をしています。後ほどご覧ください。

現状対応できていること、また今後対応しなければならないことについて報告いたしました。

議長 前回の協議会は今までにないくらいの提案が出ました。早急に対応していただけたと思います。またすぐには無理なものでも今後取り組んでもらえるとのことです。どうもありがとうございます。今後もよろしく願いいたします。次に報告が終わりましたので協議事項の令和6年度の事業予定に移りたいと思います。

広田委員 その前によろしいですか。前回の協議会の報告についてメンバーが変わったこともあり、かなり活発な議論があった中で、報告事項も説明いただきありがとうございました。ただ口頭での説明のみだと書き落としが出る可能性もあるので、サマリーのような形で前回までの経過の報告を作成することはできますか。また、私も参加して5年目ほどになりますが、Xでのつぶやきはどうかといった同じような話が、メンバーが変わっても議論が繰り返されている部分もあるので、継続協議として挙がっていたけれども検討の余地があるものと、前回の協議会で新たに挙がったものに対しての現在の対応状況を整理したサマリーを作って欲しいと思います。ご検討いただけるとありがたいです。

議長 事務局お願いします。

- 事務局 サマリーほどのものではないですが参考資料程度のものであればすぐに作ることができます。今お渡しすることできませんがメールでお送りするなどの対応をしたいと思います。
- 広田委員 メンバーが変わっても継続性のある協議ができると良いかと思います。新規性も必要ですが、それとは別に前から言われていることも把握したいです。話は変わりますが、トイレの件はどうなりましたか。
- 事務局 トイレは現状のままです。建物の躯体自体にも関わることなのでトイレだけ和式から洋式に変えることは難しいです。
- 千葉委員 難しい問題だと思いますが、口に出すことも難しいということですか。つまり、そういった要望が市民から出ていて、直したいという希望は言っていますか。または言えないのでしょうか。
- 事務局 館内の中では認識していますが、トイレ以上に早急に修繕しなければいけない部分もあります。優先順位を設けていますので、トイレの件も認識はしています。
- 千葉委員 承知しました。優先順位はつけているということですね。
- 議長 それでは協議事項に移ります。令和6年度事業予定について事前に目を通してと思いますので資料の1ページから5ページまでの事業予定について委員から意見や質問はありますか。
- 杉山委員 いくつか質問と意見があります。企画展「鴻沼」を見ました。前回の企画展も同様に展示は6月までなのに関連事業を3月にやっちゃっているの、年度明けに展示解説を入れるべきかと思います。まだ間に合うのでご検討ください。
- 次に、鴻沼資料館から資料を運んできたということで、鴻沼資料館についてのパネルや映像に関連した地図がありました。鴻沼資料館がどこにあるかを示した地図がありませんでした。私は地元の人間ではないので余計にそう感じましたが、鴻沼資料館に行くためのアクセスが必要だと思います。この展示を見て鴻沼資料館に行きたいと思う人がいると思います。ぜひ、アクセスも入れたほうが良いと思います。
- 次に、講座についてですが、来年度は中級古文書講座がありませんがなぜでしょうか。
- さらに、他館は市民の日の記念事業がありますが、市立博物館では子どもわくわく体験講座が被っています。市民の日向けの講座をやる予定はありますか。浦和博物館の郷土史会発表・講演会はどういうものなのでしょう。共催もしくは会場を貸して行うのかどちらでしょうか。
- 最後に参考でもらった入館者数について、今年度、民家園がマイナス1万2千人と大きく目立ちますが要因があるのでしょうか。以上です。

議長
事務局

事務局お願いします。

企画展「鴻沼」の展示解説は、4月・5月・6月と月1回のペースで行う予定です。地図に鴻沼資料館の位置が載っていなかった件につきましては、早急に対応します。鴻沼資料館のアクセスの紹介も検討していきます。

次に、中級古文書講座については、初級古文書講座を受講してからステップアップを図りたい方のために開講していましたが、実際に申し込む方のレベルが高く、講師の先生も初級から少し上がった方からハイレベルな方まで、レベルの幅があってやりづらいというお話をいただいていた。ハイレベルな方は、ご自身で通信などの費用がかかりますが他の勉強の仕方もありますので、市立博物館としては入り口にあたる初級古文書講座に特化して今後やっていこうという考えから、中級古文書講座を企画しないことにしたという経緯です。

市民の日向けのイベントは、5月1日の前後に、どこの館でも予定しています。市立博物館は全て子どもわくわく体験講座の中に入っているため分かりにくくなっていますが、この中の1つが5月1日に行う講座です。

浦和博物館の郷土史会発表講演会は、今まで岩槻・浦和・大宮の郷土史会の方に各テーマを求めて発表をしていただいていた。今年度はさいたま市の人物についての講演を行いました。来年度は、各郷土史会の中で発表する人が固定されていたり、話せる人がいないこともあって、各団体がさいたま市について調べた内容を発表してもらう予定です。

民家園の入館者数が大幅に減っているというご指摘をいただきました。ご存じかと思いますが、昨年7月から9月まで酷暑であり、野外博物館であるのでその期間の入館者数が大幅に減ってしまいました。ミスはないですし、暑い中足を運んで見学してもらうことは非常に難しかった状況です。また6月も2,439名と少なくなっています。これは6月初めの大雨で冠水した影響で、10日間ほど閉館した影響が大きく出ています。その間に受入予定だった団体見学は他館に受け入れてもらうという振替をしたため人数が減っています。トータルとして気候変動の影響が大きく、減ってしまったという状況です。3月の入館者数が入れば、もう少し減りは目立たなくなりますが、1万人ほど減ってしまうと予測しています。

杉山委員
議長
亘理委員

ありがとうございました。

他にご意見のある委員はいらっしゃいますか。

昨日、企画展「鴻沼」を見ました。全体的に市立博物館が整理された印象を持ちました。パネルのデザインの統一やコーナー毎の色分け、資料の見せ方も整理されて見やすくなりました。エントランスや地下にあった子供向けの物も置かなくなってとても良かったです。企画展「鴻沼」はテーマが非

常に明確で、参考文献や名称の漢字の使い分けを最初に丁寧にされていて好感が持てました。水争いについての古文書も、鴻沼の干拓をしたことで、新たな問題が出たことが分かって面白かったです。専門的な展示だなと思いました。ただ、やはり冒頭部分で鴻沼がさいたま市のどこにあるかを示したものがなくて、市外から来た人は分からないのではないかと思います。鴻沼と見沼の用水路との関係や沼が多いことについてはよくわかりましたが、場所がよく分からなかったのも場所を示すものが欲しいなと思いました。

また、江戸時代の背景や農業人口、鴻沼を干拓したことで取れる米の量がどのくらい増えたのか、資料があって、分かるようであればもっと面白いかと思いました。周りで見ている人も言っていたことですが、踏み車はどうやって使うのかなということです。パネルはありますが、どこに掴まってどこを踏んで、どこを水が流れるのか、地下の常設展示を見て理解できましたが、もう少し分かりやすくしたほうが良いと思いました。全体的に難しいので大人向けとは別にした子供向けの分かりやすい説明があると良いと思いました。

展示ウェブ解説が1階入り口にあったQRコードはそれぞれの場所にあってもいいかなと思いました。ただ実際にホームページで探そうとすると、探せませんでした。そのへんの分かりやすさも欲しいと思いました。QRコードを読み込んだときは分かりますが、さいたま市のホームページから見ると、どこにあるかが探せませんでした。企画展「鴻沼」の動画も非常に良かったです。BGMが同じテンポで耳について少々うるさいかなと思っていて、エントランスをすっきりさせたスペースを使っても良かったのかなと思いました。

常設展示室も整理されて見やすかったのですが、新収蔵品があれば示してほしいです。埼玉県立歴史と民俗の博物館もリニューアルオープンして見沼の展示も行っていたので、県立博物館とのコラボも良いのかなと思います。常設展示室の土器の一部でテグスがかかっていない土器がありました。バランスが悪く見えたので、地震等で倒れないようにテグスを付けてください。刀も今後も展示するようであればさきたま史跡の博物館のように窒素ガスを注入する必要はないと思いますが、調湿管理をお願いします。湿度には注意しないとぼろぼろになりますのでお願いします。以上です。

議 長
事 務 局

事務局をお願いします。

鴻沼の位置が分かりにくい点に関しましては、早急に対応します。鴻沼資料館の位置を冒頭に入れる案があったのですが、そのままになってしまっていました。改めて考えるとやはり入れたほうが良いと思いますので、対応

します。踏み車の説明につきましては、小さなパネルになってしまっていたのですが、江戸時代の農業全書からの解説もあります。

亘理委員 地下の常設展示室に展示しているのも踏み車ですね。であれば、例えば地下の展示にあります。とか、どうやって踏むと思いますか、のような形も良いと思います。地下の常設展示室の踏み車は人形がついていて分かりやすいです。

事務局 地下の常設展示室もご覧くださいという形で誘導できればと思います。特別展示室内の農具の脇にあるエピソードは職員の手作りで、鴻沼資料館に資料を寄贈した約20名の方たちの中から、インタビューを行おうということで、接触を試みました。住所が分からなくなっている方もいましたが、結果として4名の方に応じていただき、学芸員が当時の話を伺いに行きました。農具の使い方や鴻沼の様子などを紹介しています。そういった試みを今回の展示に盛り込んでいます。動画のBGMをつけるか、つけないかという問題は、無音ですと寂しい雰囲気になってしまいます。フリーのBGMの中でも様々な曲調のものがありますが、何度も聞いているうちに飽きてしまう方もいるかと思い、なるべく単調なものを選びました。逆に単調すぎるのも辛いということであれば様子を見ながら検討していきます。

広田委員 QRコードは、どこに設置されていますか。

事務局 QRコードは、入り口以外にも設置しています。

亘理委員 特別展示室内のそれぞれのコーナーのところにあったと思います。

事務局 鴻沼のウェブ解説は現在製作中ですのでまだ設置しておりません。

亘理委員 そうでしたか。失礼いたしました。あと、鴻沼は子供向けの解説があったら良いと思いました。

事務局 現在中途半端なキャプションになってしまっているので、頂戴したご意見を基に検討したいと思います。

議長 すぐに対応することが難しいものもあるかと思いますが、今出た意見を参考にしてください。

事務局 テグスがかかっていない土器は内側に砂袋を入れて安定させています。ただ、テグスがついていない土器の中で不安定な物がないか確認したいと思います。刀剣の錆対策については収蔵資料の刀剣は年に1回刀剣の手入れをおこなっています。常設展示室の古墳の副葬品の刀も錆が落ちないように処理を終えたうえで展示をしています。

亘理委員 新収蔵品があれば明示をお願いしたいです。

事務局 現在のところ新収蔵品を常設展示室には展示していないと思いますので、今後そういった機会があれば表示を出したいと思います。また、鴻沼の展示で農業人口が分かれば、というご意見がありましたが、それに関連する資料

を精査しきれいていませんので、引き続き探したいと思います。

議長 鴻沼の展示もまだ期間がありますので、日々進化していただければと思います。その他に来年度の事業についてご意見はありますか。

坂野委員 3ページの浦和博物館の夏休み子ども博物館の中に小田急鉄道ペーパークラフト教室とありますが、小田急とどのような繋がりがあるのか気になりました。

議長 事務局お願いいたします。

事務局 浦和博物館がリニューアルをしてから、鉄道展を開催した際に小田急と埼玉高速鉄道とできた縁を引き続き活用したいと考え、今年度も小田急と協力をして行うものです。

議長 とても大事だと思います。

新副委員長 今まではコロナ禍の中で入館者数の話はなかなかできませんでしたが、これだけ面白そうな展示や事業がある中で、多くの人に見ていただきたいと思います。昔いただいた資料を見ると、コロナ禍前は、市立博物館で年間5万人、民家園も5万人を越えた年もありました。今年度の入館者数の予想はありますか。

議長 事務局お願いします。

事務局 入館者数の目標は立てにくいですが、向こう3年ほどで、コロナ禍前の令和元年度と同じくらいの数字にもっていければと思っています。しかし客足の戻りが鈍くなっているとも思っています。各館ごとに入館者の傾向を見ると、民家園は特殊な事情もあって減っていますが、それ以外の施設は徐々に伸びています。特に数字の入っていない3月は見沼代用水縁にある浦和博物館や民家園、くらしっく館はお花見がてら入館する方が多いので、天気にもよりますが、昨年並に入ってくれるのではないかと考えています。市立博物館も氷川神社の桜を見に行く方が途中で立ち寄る場所でもあるので、去年の3月は少なめですが、企画展「鴻沼」の宣伝も力を入れてやりますので入館者数が伸びると考えています。

議長 展示や事業を多くの人に見ていただきたいですね。

新副委員長 広報もお金や時間がかかるものではなく、ミニコミ誌や広報誌を活用して多くの人に来ていただく工夫をしていただきたいです。

議長 千葉委員おねがいます。

千葉委員 入館者数に関連しますが、岩槻郷土資料館や岩槻藩遷喬館は2月・3月の街歩きのコースに入っていたので入館者数が増えているのだと思いました。先ほど、民家園が学校の社会科見学で来館するということがあったように、街歩きのコースに入れてもらったり、街歩きボランティアと協同するなどを検討しても良いのではないかと考えました。企画展「鴻沼」についてもウ

ウォーキングマップが非常に人気で売り切れていたように、多くの方がウォーキングに興味があるのだと思いました。やり方次第なのかなと思い、提案します。隣のビブリとは、連携して客足を引くことを検討しても良いかと思えます。入館者数は展示や講座を開催したことによる成果だと思えますので、増やせるような工夫をお願いします。

事務局 入館者数を増やして、予算を増やすことが1番望ましい形だと思いますがそういうシステムになっていない部分もあります。ただ入館者数がこのままで良いとは思っていません。コロナ禍もあったこともあり、戻りきっていないこともあります。ここに限らず、様々なところで入館者数について言われているところですので、今日いただいたご意見を参考にしていきます。街歩きの話も出たように、来年度新規採用職員も10区の街歩きを予定しているようなのでそのコースに組み込んでもらうなど、知恵を絞っていきたいと思います。

小宮委員 以前この場でお話をしたことなのですが、事業予定を見ると「子ども」という文字が並んでいます。街歩きの参加者を見るとほとんどシニアの方です。特に何もしなくてもシニアの方は来館するからいいというわけではなくて、博物館でも「シニア博物館」とわざわざ銘打つことも1つの手段かなと思っています。また公民館の講座で親子支援のファシリテーターをしています。小学生とその保護者が参加する講座の中で普段遊びに行っている場所を聞いてお出かけマップ作りをしています。その時に、博物館に行っている声もありました。博物館は屋根付きで無料だし、入ったらすぐに遊び道具があって面白いとのことでした。じゃあ、その博物館がどこにあるのかという話になった時に、さいたま市の博物館施設の一覧表があればいいなと思いました。その情報交換の中で民家園も見学したよという情報が出てくるので、もしマップがあれば積極的に活用したいです。情報交換の時は事前に資料を用意しますが、公民館に掲示している博物館のポスターを集めてこういう展示がありますと用意する時もあります。マップが1枚あれば情報交換の場で使いたいのでご検討をお願いします。

広田委員 ウォーキングマップや小宮委員のお話を聞くと、ホームページ上にPDF形式のものを掲載して、もし無いのであればXの固定ポストにしておくのも良いかと思えます。また、協議会に参加する中で市議会の文教委員会に繋げてもらえるのか、予算要求に関しても担当が奮闘するだけで市民の声として改修や耐震などの施設整備も入館者数を増やすためには大切だという市民の声がどこに伝わっているのでしょうか。そういうことは現状厳しいのか、伝わる場所がないのであればどこかに伝えるようなルートを作ってほしいです。

議 長 事務局お願いします。

事 務 局 なかなかこの場で直接文教委員会に行くことはできません。我々職員が予算編成をする要望はしているので、今日頂いたご意見も加味しながら予算編成を作成しています。要求した分、お金が増えるものでもありませんが今やっていることを減らしながら、その分のお金を別の部分に費やすというような調整をしています。

広田委員 おそらく以前からそういった努力はされていて、ただそのルートだけだと生涯学習という成果を上げるものでもないの、複合的に働きかけられるといいなと思っています。

橋本委員 さいたま市の教育行政点検評価委員を4年やっていて、毎年教育行政に関わる前年度の行事の内容の説明を受けています。市立博物館のホームページが見つけにくいという話の中で、予算がないことがおかしいと申し上げたこともあります。声が届かないということは行政の場合どこの部署であっても共通に思っていることだと思います。しかし、現在大宮区の街づくりの中で、空いてる土地が出てきています。旧市民会館おおみやの跡地や旧大宮区役所の跡地など広い場所がある中で、ある市民団体は博物館をそういった場所に移転したらどうだと意見を上げていることも実情です。それが良いことかどうかは分かりませんが、街づくり団体がしっかりと市に意見を言ってくれているケースもあります。実現できるかは別ですが、ご承知おきいただければと思います。今ちょうどこの地区はそういった土地が出てきているという状況にはあります。

広田委員 隣の建物も元図書館で現在は民間委託をしているかと思っています。民間委託にあたって、例えば教育的な観点から使用する場合は優先的に使える等はないのですか。

橋本委員 それは市のほうで考えることではありますが、要望を上げることは非常に大事です。それが力になっていて、特に鉄道博物館ではその力が非常に強かったです。私や私の仲間が設置運動に関わりましたが、頑張った結果であそこにできたと思っています。ぜひ、声を上げることを諦めないでやっていると実現できることもあります。例えば協議会の総意で要望書を市に提出するということはあっても良いのかな、とは思います。そういったことがきっかけとなり、市民の声が届くということになるのかなと思います。今日はこのような話題が上がりましてXにあげるだけでも、見ている人が少ないかもしれませんが声が上がることになるのかなと思います。博物館協議会という組織があって、出た意見の内容を発信して、次に繋げたいという期待もあります。さいたま市の博物館協議会というアカウントを作って、出た意見をポストすることも面白いかなと思います。できそうなことはあるか

と思いますので、マップなどもそうですし、博物館のサポーターを作ることはどんどんやっていただきたいです。

広田委員 実際どうするという話ではありませんが仮にこの協議会で要望書を作るとなると誰が作成して、どこにあげるのでしょうか。

橋本委員 今までの経験からすると教育長にあげるのが筋かと思います。

広田委員 要望書の作成は私たちがするということですね。

議長 その話は協議会が終わった後、個別にお願いいたします。来年度の事業についてご意見はありますか。

神田委員 来年度というより前回の内容になりますが、冒頭にあった振り返りの中で出てこなかったのですが図録の電子書籍化についてお聞きします。企画展「鴻沼」についても、できると呼び水になるかなと思います。展示開催期間中だとあまり良くないという話であれば企画展終了後でも良いのでそういったものが出ると良いなと思っています。そちらはどのように考えていますか。

事務局 前回の協議会でも話した通り著作権が全てクリアできないと全ページの公開ができません。当館蔵の著作権の関係がない写真や文書は掲載できますが、他館から借りた物で許可が貰えないものについては伏せて出さざるを得なくなります。

神田委員 前は図録を作る際に事前に許可を貰うという話もあったかと思います。今回の企画展もそこを含めて聞いているかと思っていました。

事務局 今回はそこまでは聞いていません。図録があるのは特別展のみで、企画展は図録もありませんので、今回はポスター・チラシのみになります。展示室に展示する写真パネルはもちろん承諾を貰って作成しています。

神田委員 分かりました。ありがとうございます。また冒頭に聞いておけば良かったのですが、他館との共催についてです。鴻沼資料館とのやり取りは伺いましたが他の自治体の博物館との共催はいかがでしょうか。

事務局 それは交渉しないとならない事案です。他の博物館の事業予定等もありますので、今から検討するのであれば2・3年先のことになります。予算が伴うものになると、3年先の話を持ちかけるような形になります。それ以前のどういう統一テーマを設けて、お互いにどういったものを展示するかなど擦り合わせや準備から始めなければならないかと思います。しかし、それも検討課題の1つと思っています。今のところ職員の手が回らないというのが実情です。

神田委員 予算の話はあまり言うべきではないかと思うのですが、入館料についてです。今は無料になっていますが今後徴収する予定はありますか。聞いている理由としては、例えば川越市の市立博物館のように、市立博物館でも入館

料を徴収していないところがないからです。他の政令指定都市でも市立博物館でも入館料を徴収しています。大津市のように政令指定都市でない自治体でも入館料を徴収しているところもあります。徴収すること自体は可能だと思いますし、徴収できるのであれば予算に苦勞しなくても済むのかなと思うのですが、そのあたりに関して何か考えていることはありますか。

事務局 博物館で入館料を徴収できるというのは例外の事です。博物館法では無料が前提になっていて、その精神に則って当館の条例が策定されています。また入館料を徴収した場合に入館者数が減ってしまっは元も子もありません。その兼ね合いもあるかと思ひます。簡単にできそうに見えますが、背景に難しい問題があります。今のところ、無料のままというように考えています。

神田委員 市民であれば半額もしくは無料にして、市外から来た場合は正規の入館料を徴収するというやり方はできると思ひます。そういったやり方をしてる博物館もあるので予算の助けになるかと思ひます。

広田委員 前回の協議会の後で伺ったお話で、さいたま市内でも大宮盆栽美術館や岩槻人形博物館は入館料を徴収していますが、教育委員会が管轄する博物館は生涯学習を根幹にして、博物館法の観点も含めて原則無料ということですよ。

神田委員 情報として知っていましたが、他の自治体が入館料を徴収しているののでできないのかなと気になりました。

亘理委員 考え方次第だと思います。博物館法では、運営上やむを得ない状況であれば徴収して構わないと書いてあります。意味合いではノンプロフィットに近いのかなと思ひます。他の利益を得るために徴収するのではなく、博物館本来の事業のためであれば徴収しても良いという話ですが現状、この博物館で入館料を徴収する人件費などを考えた場合に採算がとれるのかということです。年間の入館者数のうち、原則無料になる小中学生の割合が高いと思ひます。実質入館料を徴収できる人数が何人なのだろうと考えた時にわざわざ体制を整えて入館料を徴収して、管理をして、それに付随する業務が増えると考えられる中でどれだけの利益が上がるのかは検討すべきことだと思います。

広田委員 入館料という用途の曖昧なものにするよりはクラウドファンディングにする方が好ましいのかなと思うのですが例えば、施設にトイレを作るとか、そういったクラウドファンディングはいかがでしょうか。

亘理委員 クラウドファンディングは複数回できないので、その場限りになります。継続的にはできないです。国立科学博物館も来年はやらないはずです。

事務局 さいたま市のクラウドファンディングは予算化されたものに対して財源

として充てるものなので、例えばトイレを改修するという話になった時は、まず博物館が予算を組みます。予算が組めたとしてその財源として募る形になるので、そもそもトイレの予算が組めないとクラウドファンディングはできないというのが、さいたま市のやり方です。

新副委員長　私が以前勤めていた野球殿堂博物館には維持会員という制度がありました。寄付ではなく会費として集めていて、実質的に事業費に入るような形でした。寄付はまた別の枠であったので、寄付と維持会員と2本立てでした。維持会員はお金ももちろん重要ですが、サポーターの役割が強かったです。色々な意味で野球殿堂博物館に対して助けてあげようというのを謳っています。通常、博物館の友の会は何かが貰えるという話が多いですが、野球殿堂博物館の維持会員は博物館の事業に賛同して、それに協力しましょうというシステムです。民間ではなく市のベースで可能かどうかは難しいですが、サポーターシステムのようなものができるとお金だけではない広がりがあるのかなと思います。

坂野委員　図録の電子化と予算の件で質問をします。図録の売り上げは予算に組み込めるほど利益があるのでしょうか。他の博物館では図録の売り上げが重要だと学芸員から直接聞いたことがあります。こちらではどうなのでしょう。もちろん微々たるものかもしれませんが、内実の話なので話せる範囲で構いませんが、お聞かせください。

事務局　現状の予算のシステムでは図録の売り上げは、特定財源ということで博物館の一般的な財源になっています。現状、図録の収入は多い時で百万円を越えるくらいです。毎年それだけの収入があるわけではありませんし、図録の売り上げのみで施設を改善していくことは難しいと考えています。

議長　それでは、次の第48回特別展について、事務局からお願いいたします。

事務局　第48回特別展として「さいたまの天文」を開催したいと考えています。会期は10月5日から11月24日の50日間の内、開館日数43日間を予定しています。日本における天文学は中国の暦の伝来からスタートしています。なぜさいたま市で天文学を扱おうと考えたかと言いますと、江戸時代中期に活躍した学者に、鈴谷村出身の稲垣田龍という人物がいるからです。幼い頃から剣術や武術に興味を持って江戸で修行していましたが、平賀源内の門人の浅野北水に入門して天文暦学の研究を始めました。当時最先端だった地動説に共鳴した1人で、先進的な学問や文化を吸収して地元を広めるために活動していた人物です。資料にある通り自分で写して作成した天文図も残っています。この資料はアーカイブズセンターで保管しています。鈴谷村出身の人物なので、現在、与野郷土資料館で田龍に関する展示をしています。また、田龍の関係資料は市指定文化財に登録されています。

さいたま市域で、天文学がどのように展開されていったのかについて紹介したいと考えています。展示構成としては、第1章で日本の天文学について紹介し、第2章で江戸時代の天文学について触れます。天文学において転換期を迎えた時期と言われています。第3章で稲垣田龍の功績を紹介し、第4章でさいたま市域の天文学の状況について紹介します。関連事業は講座を2～3回、学芸員による展示解説を予定しています。また図録も作成します。チラシ・ポスター・市報・X等で広報を行います。

議長 特別展について、質問や意見をお願いいたします。

広田委員 大宮にプラネタリウムがあると思いますが、コラボレーションする予定はありますか。また、天文というと夜というイメージがあるのでナイトミュージアムのために開館時間をずらすことは可能ですか。

議長 事務局お願いします。

事務局 宇宙劇場とのコラボレーションは検討していますが、相手方にお話はしていません。年間計画も決まっていると思いますので協力できそうなところがあればしていただけないかなと考えています。ナイトミュージアムに関しては皆様のご意見を頂戴しているところです。この後、内容をこれから検討していきますので内部手続きは必要になりますが、可能であれば夜間の開館もできなくはないと考えています。

広田委員 手続きをすれば開館時間をずらすことができるのであれば、この展示に限らず可能ということですね。

事務局 可能ですが、職員の時間外勤務の関係もあります。

亘理委員 宇宙劇場とのコラボレーションの話がありましたが企画の部分で協調は難しいかもしれませんが、展示を見た人が宇宙劇場に行くと割引になるなどの連動はいいのではないかと思います。スタンプラリー形式でも良いでしょうし、せっかくなので何らかの連携をしていただきたいです。小田切委員と伊藤委員にお聞きしたいのですが、市内の小中学校の理科や天文が好きな先生をこういった企画に巻き込むことはできますか。

小田切委員 巻き込まれ方によるかと思います。教員の立場で勤務として関わるか、天文好きとして自己研鑽で関わるか、という大きく2つの関わり方があると思います。勤務として関わるとなると、様々なことが起こると思いますので、勤務でないほうで、教員のやってみたいという思いでやるというのも良いかと思います。

亘理委員 授業内で宣伝してもらっただけでも良いかと思います。

小田切委員 そういう宣伝は積極的にさせていただきます。

議長 私からも質問させていただきます。子供たちが来るきっかけになるような内容や引き付け方を考えていますか。

- 事務局 歴史系の博物館でもありますし、稲垣田龍の関連資料も天文というより、天文に関する資料が中心となっていますので歴史系に寄ってしまうと思います。子供たちに対するアピールは精査が必要だと考えています。
- 議長 当時の人たちは天文に関してどのような感覚や知識を持っていたのか、一般の人たちは天文をどのように受け止めていたのか農業ではこう役立ったとか、自分たちや一般の人たちに引き付けて、広い意味での天文の影響にも目を向けていただけたら興味を持つのかなと思います。
- 事務局 当時の天文観は様々な書物で触れられているので、そこを出すともう少し分かりやすくなるかと思います。
- 広田委員 実際の天文図を小中学生に配布して星空を見ようと促すことはできますか。
- 事務局 現物資料はとても大きくて、小さくすると空があまり写らないかと思います。他の天文図であれば可能かと思います。地動説で描かれている天文図は太陽が中心にあって、彗星も描かれています。また面白いことに金星が色々と議論されているものもあります。面白い情報も含めて活用の仕方を考えたいと思います。
- 広田委員 小中学校で天文の授業は何年生で行うものですか。
- 小田切委員 中学校は2年生の理科の授業で行います。
- 伊藤委員 小学校は4年生で行います。宇宙劇場のプラネタリウムで星の動きを学びます。
- 千葉委員 天文クラブはないのでしょうか。また小学校にポスター・チラシは配布しているのでしょうか。
- 事務局 チラシは送っていませんが、ポスターは送っています。
- 伊藤委員 来たら掲示します。
- 千葉委員 浦和にも駒場にプラネタリウムがありますので、そちらとも何か考えていただければと思います。
- 亘理委員 子供たちに親しんでもらうためのアプローチは様々あると思います。例えば星の捉え方がどう違うのか、惑星を把握していたのか、地動説の話とか、子供でも興味を持てる内容があるのかなと思います。知恵を絞って子供たちの興味を湧くものを作っていただければと思います。
- 事務局 去年はプラネタリウムが百周年を迎えました。そういった情報も頂いたので、使えそうなものを活用したいと思います。
- 神田委員 この展示は動きを見せるようなものはありますか。
- 事務局 動きを見せる展示については思いついていないというのが現状です。
- 神田委員 天文の展示であれば動きがあるほうが子供たちにとっては分かりやすいかなと思いました。

小宮委員 空を見上げるきっかけになるような展示になると良いですね。流星群の関係のものがありますか。

事務局 この時期はピークから外れています。また、動きを見せる展示にすると関連資料をどう出すかと考えるところでもありますので精査していきます。

千葉委員 動きを見せるまでできなくても位置関係が三次元でわかる模型を作ることではできませんか。先ほどの話にあった現在と江戸時代の天体の位置の違いがあるのだとしたら模型があると理解しやすいと思いました。また、ナイトミュージアムとプラネタリウムは親和性が高いのかなと思いました。その2つを繋げて何かできないのかなと思いましたし、宇宙劇場の職員にお願いして星空観察をすとか街歩きと連携しても良いかと思います。ナイトミュージアムをやるのであれば、何かイベントを入れるとより楽しいのかなと思います。

杉山委員 模型の関係でいうと天球儀があると思います。地球儀と違って作りやすいと思うので作ってみても良いかと思います。また吾野神社にある天球儀は現在、埼玉県立歴史と民俗の博物館で預かっているので、それを活用しても良いかと思います。ナイトミュージアムで空を見上げると言ってもさいたま市は明るいので星が見にくいかなと思いました。

議長 プラネタリウムは家庭用の投影機が販売されていますよね。それであれば簡単に星空観察ができるかと思います。大変だとは思いますが、まだ時間があるので検討をお願いします。

では、次の浦和博物館の企画展について事務局からお願いします。

事務局 浦和博物館では次の企画展として漆刷毛の展示をしたいと考えています。会期は10月22日から12月8日を予定しています。会場に浦和博物館の展示室とありますが、実際には展示ケース6台ほどの規模となります。今回取り上げた理由は、趣旨にも書いてある通り、国の検定保存技能をお持ちで漆刷毛を作成している方が、さいたま市に住んでいます。その方がどのように漆刷毛を作成しているのかというのを紹介しようと思っています。合わせて、さいたま市の南鴻沼遺跡から出土した漆製品の漆を塗っていた刷毛の部分を拡大した写真も展示します。北陸地震の影響で漆製品が作れなかったり、道具がなくなったりしています。今後、そういった道具類が必要になると思います。漆刷毛は、昔は、「かもじ」を使用していたようですが、現在は、「かもじ」がなくなっていて、中国人の髪の毛を使用していたようですが、やはり日本人の髪の毛が良いそうです。パーマやカラーなどがされていても薬剤に漬けて元の髪質に戻せる技術を持っているため、必要な長さがあれば刷毛を作ることができるそうです。ヘアドネーションのお話も含めて伝統工芸を守ることに繋がるという紹介を含めて、展示を

考えています。

小宮委員 最初は漆刷毛と書いてあるので遠い話のように思いましたが、地震やヘアドネーションの話を含めるととても身近に感じました。とても興味のある展示です。

議長 初音委員はご意見ありますか。

初音委員 浦和博物館の展示はとても楽しみな展示だと思います。この協議会に参加すると知らないことばかりだなと感じます。始まる前に鴻沼の展示を見ましたが、場所がどこなのかなと思い、ずっと探しました。天文のところでは折り紙で折ってしまおうと考えていました。

議長 漆刷毛の展示では製作工程が分かるような映像は流しますか。

事務局 浦和博物館では映像を流せる設備がないので、そういったことは考えていませんが漆刷毛の技術を持っている方が漆刷毛を製作していく工程で使う道具をお持ちなので、それを順番に並べて展示します。写真展示になるとと思いますが、製作の様子を紹介します。また、浦和博物館で実演をお願いしようと考えています。この後、お話を詰めていきますが、実演や講演会などの何らかの形で実際に見てもらおう場を作る予定です。

議長 実際に作業している場面は興味がある方が多いと思うのでぜひ実現していただければと思います。

神田委員 浦和博物館の展示もとても興味があるのですが、講座に参加できない場合、情報を追いたい場合はどうしたら良いでしょうか。講座の内容と展示をどういう形でまとめられるのかなと気になりました。現地に行かなくても見ることができるように講座が終わった後でも良いと思うので、何か見られるようなものがあると良いと思います。

事務局 ホームページ上で取り上げるのが1番良いと思いますが、年に1回「あかんさす」という館報を発行していますので、取り上げようかと考えています。

神田委員 過去に開催した講座の一覧は、年度ごとに掲載されているということですか。

事務局 浦和博物館では特別展・企画展を行いますが図録は作っていません。また何を展示したのかについてもデータとして残っていないため、タイトルのみ残しているのが現状です。

広田委員 関連講座を開催している最中に適宜写真を撮影してXに掲載することも良いかと思います。

神田委員 せっかく展示をしていることもあるので、まとめられるものがあつたらいいなと思います。切り口がいろいろあれば興味を持ってもらえるのかなと思います。

橋本委員 3月1日に、大宮区役所内の大宮図書館の展示コーナーで、以前市立博物

館が展示した中山道についての展示を行っていました。あれはどのような経緯で実現したのかお聞きしたいです。

事務局 大宮区役所が主催の展示で、数年前から中山道の展示をやりたいという話を受けていました。そこで、過去に特別展「中山道大宮宿」で使用した展示パネルを貸し出したものです。

橋本委員 ありがとうございます。特別展を見損なってしまったので大宮区役所の展示を楽しく見させていただきました。

議長 他にご意見ある方いますか。

亘理委員 浦和くらしの博物館民家園は野外博物館で維持費がかかると思います。川崎市の日本民家園は年間10万人ほど入園者がいます。なぜ来園者が多いのか、参考になる部分がないか考えてみてはいかがでしょうか。この施設も駅からかなり歩く立地にあります。去年の博物館法の改正で、文化振興という項目も加わったので、その観点も入れながら、例えば民家園の広場に空いている真ん中でイベントを開催してお祭りのようなものを作って収入を得たり、ロケハンに使ってもらうなど、もう少し別のやり方で活用していただきたいです。

事務局 民家園には都市公園という縛りがあります。建物を勝手に建てることはできません。敷地面積に対して建てられる建物の割合が決まっていますので簡単に屋根付きのものを建てることはできません。様々な方法で収入を上げて維持費の足しにするというのはありがたいご意見です。そちらに関しては今後、研究させていただきます。ロケハンのお話に関しては、何件か受け入れをしています。この間も、監督を含めた15人くらい来てロケハンをしていきました。その結論がそろそろ出そうなのですが、文化財なので傷をつけないように使わなければならない、ですとか扉の付け替えはできない、ですとかそういったものもあって上手くいくかどうかは分かりません。しかし、博物館をロケに使うというのは、博物館を目的外で使用することでお金を徴収することができます。お金の算定がとても安く設定されています。例えばウエディングフォトで業者が入って写真を撮るのにいくら徴収できるかと言うと1日100円です。さいたま市が適用している条例がカメラ1台100円ということになっているため、静止画を撮影できるカメラは1台100円です。動画を撮影できるカメラになると1時間3,300円になります。来てくれるのであれば、ドラマや映画の撮影で、カメラ5台で10時間撮影してくれると収入が見込めますが設定が安いというのがあります。他市の事例を見ると1棟を借りるのに1時間いくら、という使用料を設定しているところもありますが、民家園には使用料の設定がないので、さいたま市全体で使っているルールに則っているため、金額が抑えめになってし

まうということです。ですので、なかなかロケでお金を稼ぐのは難しいですし、ロケをやるには、博物館としての機能を害さない日にやってもらうことになります。そうすると休館日しか使えないということになります。ロケはなるべく受け入れて、来た人にはいろいろな人に広めてねとお願いしていますが、1年に2件あるかというところでは真ん中の広場をお祭りなどに貸し出す伝手はあるかと思えます。研究しきれていませんが、1日あたり行政財産の目的外使用ではない別の枠で、もう少し徴収できるようにできないか、今後研究したいと思えます。過去にいた職員が、キッチンカーを呼べないかということで聞いたようなのですが、市役所に入るのと同様の採算が取れないだろうということでした。キッチンカーも、様々な手続きを経た上では可能ですが、文化財に近いと火が使えないなどの制約が出てくるため、条件を厳しくつけて、このような条件でも出てくれるか、という提示の仕方になります。

議長 本日の議事については、これで終了します。